

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：11601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2015

課題番号：24650584

研究課題名(和文) 福島県における歴史資料保全と地域総合資料学の構築に関する研究

研究課題名(英文) Dealing with Historical Materials Preservation and Local Document Studies in Fukushima Prefecture

研究代表者

阿部 浩一 (ABE, Koichi)

福島大学・行政政策学類・教授

研究者番号：70599498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、2011年3月の東日本大震災および福島第一原発事故によって甚大な被害を受けた福島県において、滅失の危機にある歴史資料の保全と活用をめざす地域歴史資料学の成果を踏まえ、その対象を歴史資料から考古資料、民俗資料、自然史資料にも拡大し、新たな「地域総合資料学」の構築をめざすものである。成果の第一は、震災後の歴史資料保全活動の多様な成果を踏まえ、福島県の現状と課題を分析し、全国に発信したことである。第二は、全県的な歴史資料所在調査に向けて、情報集約とデータベースの構築に着手したことである。そして第三は、総合的な地域資料の保全と活用の社会的意義を、市民・行政との対話を通じて追究したことである。

研究成果の概要(英文)：The Great East Japan Earthquake (March 11, 2011) and accident at the Fukushima nuclear power generator placed a number of historical materials at risk of loss or damage. Our research project aimed to establish a comprehensive "Local Document Studies": a combination of historical science, archeology, folklore, and natural history. The results are as follows: we 1) reported on the use and preservation of historical documents in Fukushima Prefecture; 2) integrated information on where historical documents are located; and 3) discussed the significance of the use and preservation of local documents with local residents in Fukushima Prefecture.

研究分野：日本中世史

キーワード：地域総合資料学 歴史遺産

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の直接のきっかけは、2011年3月に発生した東日本大震災および福島第一原発事故災害にある。その前提には、1995年の阪神・淡路大震災以降、被災地の歴史研究者を中心に、地域の歴史・文化を伝える古文書等の歴史資料を保全する「史料ネット」の活動がある。その牽引役でもある奥村弘(神戸大学)は、地域住民との共同による被災歴史資料の保全と活用をめざす「地域歴史資料学」を提唱し、全国の研究者とともに多様な研究事例の集積と理論化を進めている。

(2)福島県では2010年11月に「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」(略称:ふくしま史料ネット)が発足しており、震災1か月後の4月下旬より活動を開始した。その過程で、福島県では歴史資料の所在情報が古く未集約であり、その後の追跡調査もほとんどなされていないため、既存のデータをそのまま活用するのは困難であることが浮き彫りになった。しかもそれは歴史資料ばかりでなく、考古学の発掘調査報告書、民俗資料、自然史資料でも同様であることが判明した。歴史資料保全活動の現場では多様な地域資料への対応を求められることもあり、情報共有の意味からも、学際的な調査・研究体制をとる方が有効である。

(3)福島県は特に原発事故という特異な災害を抱えてしまったため、長期にわたり住民が地域と切り離され、帰還できないというきわめて異常な事態が現出した。そのような状況下で、復興事業と将来の帰還までの長い道程を支えるのは地域に対する住民の思い、心の結びつきであり、そのためにも精神的紐帯となる地域の歴史・文化遺産の保全と活用が不可欠であることは、関係者の共通認識となっていた。

2. 研究の目的

(1)東日本大震災と福島第一原発事故で甚大な被害を受けた福島県において、滅失の危険にさらされている地域資料の保全をはかり、学術研究の成果を地域社会に還元することを通じて、大規模災害からの復旧・復興過程における歴史学の社会的役割のあり方を追究する。

(2)特に、放射能汚染の深刻な影響で住民の立入制限と避難を余儀なくされている双葉郡地域を中心に、歴史・文化遺産の保全と活用を通じて、地域および住民のアイデンティティとも密接に関わる歴史的・文化的地域性の維持をはかり、「心の復興」に寄与する学術研究をめざす。

(3)歴史・文化遺産の保全を地域住民とともに推進し、地域理解の深化のための活用をはかってきた「地域歴史資料学」の問題意識と

方法論に学びつつ、地域の成り立ちと特質を追究する手がかりとなる、歴史資料、考古資料、民俗資料、自然史資料などの多様な資料の保全と活用を、文理融合型の学際的研究によって推進する「地域総合資料学」の構築をめざす。

3. 研究の方法

(1)福島県の場合、歴史資料の所在調査を進める上で基礎となる情報が集約されておらず、現状では未更新のままの古い情報に頼らざるを得ない。緊急性を要する市区町村から順次、目録作成とデータベース化を進める。同時進行で、実施可能な地域から現地調査に着手して、既存の所在情報を更新し、デジタル撮影による記録撮影を進める。その他の分野でも同様の取り組みを推進する。

(2)福島県の歴史・文化遺産がおかれている逼迫した状況については、県内の文化財関係者を除けば、ほとんど知られていない。ひいては、福島県内における歴史・文化遺産の保全活動の低調さとも関わってしよう。福島県内の歴史・文化遺産が抱える現状と課題について分析し、県内外に積極的に発信することにつとめる。

(3)歴史学は史料の解釈と分析を通じて新たな歴史像を提示し、豊かな地域像を構築していくことで、地域と住民の結びつき、「心の復興」に寄与することができる。新出資料から得られた新たな地域像を広く共有するため、シンポジウム等を積極的に開催し、その成果を市民・行政と共有するとともに、相互の対話と連携を進めていく。

4. 研究成果

(1)歴史資料の所在情報の手がかりとなるのは自治体史や調査報告書である。福島県内の県市町村史の編纂事業を整理すると、1970~90年代に集中しており、平成になって事業の進められた自治体でも、その半数以上が平成の大合併で消滅していた。1980年に福島県教育委員会が編纂した『福島県古文書所在確認調査報告』の調査点数は30万点以上に及ぶものの、当時の90自治体の約15パーセントにあたる14自治体が未調査となっている。このような各種データが、継続的調査によって更新されていた様子も見られない。東日本大震災の発生以前の福島県では、歴史資料の散逸・消滅を防ぐための積極的対応がとられておらず、歴史資料の所在情報も更新されぬまま、集約も不十分で、災害発生時に緊急対応できるような体制はおろか、その基盤整備すらできていなかったことが浮き彫りになった。こうした分析を踏まえ、福島県における歴史・文化遺産の防災対策として何が必要であるかを提言した。

(2)旧警戒区域のうち、飯舘村・葛尾村・川

内村・川俣町・田村市常葉町・田村市都路町・檜葉町・南相馬市小高区、さらに浜通り地域のいわき市について、研究補助者の協力を得て、自治体史をもとに所蔵者一覧などを作成した。このデータベースをもとに、被災資料の所在調査活動や文化遺産防災などに役立てていくことが、引き続いての課題である。

(3) 県北の国見町では、震災直後から自治体・町内会・郷土史研究会とふくしま史料ネット、福島大学が連携し、歴史資料保全活動が進められていた。そこで本研究では、旧宿場町を中心に数年間にわたって継続的に所在調査に入り、並行して自治体史などをもとに所蔵者一覧を作成した。両者を比較検討した結果、1970年代の『国見町史』編纂段階では調査できなかった歴史資料が相当数あることが確認できた。しかし、一部には残念ながら所在不明となってしまったものもある。あらためて継続的な歴史資料所在調査の重要性が明確になった。国見町では歴史資料所在調査を継続するとともに、郷土史研究の蓄積に学びながら、地域住民と共同で歴史・文化遺産を再発見・再評価する活動にも取り組んでいる。

(4) 東日本大震災で被災した家屋から救出した歴史資料は、ふくしま史料ネットおよび福島大学が記録保全活動を継続している。これまで国見町、田村市常葉町、桑折町、いわき市の個人蔵の文書群(1軒あたり数千点、総計で1万点以上)の記録整理に取りくんできた。本研究ではその一部の目録整理を進め、概要と特記事項をまとめた。本格的な解釈と分析には至っておらず、公開の可否と活用に関する所蔵者の意向を踏まえながら、今後の継続課題とする。

(5) 2013年2月に開催したシンポジウム「ふくしま再生と歴史・文化遺産」では、阿部浩一(研究代表者)が報告し、のち菊地芳朗(連携研究者)の寄稿を得て、同題の図書として上梓した。その後、「懇話会 ふくしま再生と歴史・文化遺産 2015」と題するシンポジウムを、1月に福島市、9月に郡山市で開催した。

1月は本研究の総括を兼ね、阿部浩一(研究代表者)が歴史資料、菊地芳朗(連携研究者)が考古資料、黒沢高秀(連携研究者)が植物標本について、それぞれの現状と課題について報告した。いずれの分野においても、基礎となる情報の集約と公開がほとんど進められていない現状があらためて確認された。考古学では、発掘調査報告書のデジタル化とデータベースによる公開が進められる中で、福島県は数少ない未着手の県であり、植物標本では、博物館等に植物標本がないのは福島県と長崎県のみで、地元研究者や大学教員によって収集されてきたコレクションも散逸・消滅の危機にあるという。また、考

古学分野では、行政の関与する部分が大きいため、個人蔵の文書資料を中心に進められてきた史料ネットの活動とは親和性に弱い部分があることも理解した上で、史料ネットの活動のあり方についても検討課題があることが指摘された。植物標本では、双葉郡に関わる個人コレクションの保全と整理が進められてきたことが紹介された。民俗学を含めた議論を通じて、本研究のめざした地域総合資料学の構築に向けてはなお課題が山積しており、それぞれの分野がまず足固めをしていかなければならないことが確認された。今後の展開として、総合的研究に着手できそうな共通のフィールドを定め、地域像を総合的に描き出す実践的研究を推進していくことが先決であろう。引き続き課題としたい。

9月は、市長主導のもとに市を挙げての歴史資料保全活動の推進に向けての検討に入りつつある郡山市と、役場内に歴史・文化等保存プロジェクトチームを立ち上げて地域資料の保全を進める富岡町の取り組みに学び、歴史・文化遺産の保全に対する市民・行政の意識向上につなげていくことを目的に開催した。参加者の活発な意見交換の様子からも成功裡に終わったといえよう。引き続き福島県内各地での懇話会開催を通じて、県民の歴史・文化遺産の保全活動への啓発にもつとめていく所存である。

(6) 以上の研究成果については、既発表論文・図書などに加え、科研報告書としてまとめている。

<引用文献>

奥村弘編、東京大学出版会、歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築、2014、422

・ 阿部浩一、歴史資料の保全・活用と地域社会 - 福島県での歴史資料保全活動を通じて -、『歴史評論』、査読無、794号、2016、34-46

阿部浩一、福島県の歴史・文化遺産をめぐる現状と課題、『財界ふくしま』、査読無、2016年6月号、2016、117-124

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

阿部 浩一、歴史資料の保全・活用と地域社会 - 福島県での歴史資料保全活動を通じて -、『歴史評論』、査読無、794号、2016、34-46

阿部 浩一、福島県の歴史・文化遺産をめぐる現状と課題、『財界ふくしま』、査

読無、2016年6月号、2016、117-124

阿部 浩一、福島県の資料保全の現場から4年間の経験をもとに、『歴史学研究』、査読無、第935号、2015、33-36

阿部 浩一、福島県の歴史・文化遺産をめぐって、『日本古書通信』、査読無、2015年3月号(通巻1028号)2015、2-4

阿部 浩一、歴史資料保全活動の3年、そして未来、行政社会論集、査読無、第27巻第1号、2014、151-159

〔学会発表〕(計9件)

阿部 浩一、東日本大震災から丸5年経った福島と史料ネット、第2回全国史料ネット研究交流集会、2016年3月20日、郡山市民プラザ(福島県郡山市)

阿部 浩一、歴史資料の保全・活用と地域社会、歴史科学協議会第49回大会、2015年11月29日、明治大学(東京都千代田区)

阿部 浩一、ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動、福島フォーラム 歴史から見つめ直す「生存」の場、2015年2月28日、コラッセふくしま(福島県福島市)

阿部 浩一、ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動と今後に向けて、全国史料ネット研究交流集会、2015年2月15日、神戸市国際会館(兵庫県神戸市)

黒沢 高秀、国内最低レベルの状況での四苦八苦 福島県における自然史標本をとりまく現状と震災後の取り組み、懇話会 ふくしま再生と歴史・文化遺産 2015、2015年1月25日、福島県文化センター(福島県福島市)

菊地 芳朗、考古学(埋蔵文化財)分野の課題と今後、懇話会 ふくしま再生と歴史・文化遺産 2015、2015年1月25日、福島県文化センター(福島県福島市)

阿部 浩一、文書資料保全の経緯と課題、懇話会 ふくしま再生と歴史・文化遺産 2015、2015年1月25日、福島県文化センター(福島県福島市)

阿部 浩一、福島県における文化財レスキューと文化財のはたす役割、文化財保存全国協議会第45回奈良大会、2014年6月22日、奈良県文化会館(奈良県奈良市)

阿部 浩一、福島大学による歴史資料保

全活動と地域連携、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター設立2周年記念第6回シンポジウム「ふくしま再生と歴史・文化遺産」、2013年2月3日、福島県文化センター(福島県福島市)

〔図書〕(計2件)

阿部 浩一(ほか執筆者29名) 東京大学出版会、歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築、2014、289-299

阿部 浩一・福島大学うつくしまふくしま未来支援センター編、山川出版社、ふくしま再生と歴史・文化遺産、2013、191-211

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

阿部 浩一(ABE, Koichi)
福島大学・行政政策学類・教授
研究者番号: 70599498

(2) 連携研究者

菊地 芳朗(KIKUCHI, Yoshio)
福島大学・行政政策学類・教授
研究者番号: 10375347

黒沢 高秀(KUROSAWA, Takahide)
福島大学・共生システム理工学類・教授
研究者番号: 80292449

(3) 研究協力者

高橋 充(TAKAHASHI, Mitsuru)
福島県立博物館専門学芸員

本間 宏(HONMA, Hiroshi)
福島県文化財センター白河館学芸課長